

## リウマチ・膠原病センター

### ■ スタッフ

センター長	中島 亜矢子
副センター長	若林 弘樹
医師 常勤	5名
併任	1名

### ■ 特色・診療対象疾患

当センターは、リウマチ膠原病性疾患全般を専門に診療する部門です。対象疾患は、ほとんどが慢性炎症性疾患で、骨関節・呼吸器・腎臓・皮膚などの多くの臓器に病変をきたし多彩な病態をとることが特徴です。全診療科を兼ね備えている大学病院ですので、一人一人の多彩な病状に対し、関連する診療科と連携しながら診療にあたることができます。

近年、多くの生物学的製剤や免疫抑制薬などの治療薬が開発されてきており、早期に診断し、寛解をめざした安全で効果的な最新の治療を提供することができるようになりました。

治療が長期にかかる病気が多いですので、お近くの医療機関との連携を大切にし、患者さんの生活の質や長期予後の改善を図るようにしています。

#### 1. 当センターの特色

2018年11月からは、リウマチ膠原病内科医中心であった当センターに整形外科医を迎え、より充実した診療をおこなっています。

- 複数担当医によるチーム医療
- 関連する診療科との連携
- 関節超音波検査等医療機器の導入
- 院外施設から診療依頼の積極的受け入れ
- バランスを鑑みた全人的診療 を、おこなっています。

#### 2. 主な診療対象疾患

- 全身性エリテマトーデス、関節リウマチ、強皮症、多発筋炎/皮膚筋炎、混合性結合組織病、シェーグレン症候群 など
- 血管炎症候群（高安動脈炎、顕微鏡的多発血管炎、多発血管炎性肉芽腫症 など）
- 成人スチル病、ベーチェット病、多発軟骨炎、リウマチ性多発筋痛症 など
- 脊椎関節炎、乾癬性関節炎、偽痛風 など

### ■ 活動実績

2018年度からは、学生実習、初期研修医、専攻医を受け入れ、診療のみならず教育・研究活動にも力を入れています。

#### 1. 治療実績

- 新患 約500例  
関節リウマチ 30% 膠原病 45%
- 入院 約40例  
皮膚筋炎/多発筋炎、全身性エリテマトーデス、強皮症、血管炎症候群、多発軟骨炎、関節リウマチ、リウマチ性多発筋痛症、TAFRO症候群、PFAPA症候群、サルコイドーシス など

#### 2. 教育活動の実績

- 卒前教育：医学部生への講義・チュートリアル教育、病棟実習
- 卒後教育：初期研修医・専攻医への臨床指導、学会発表指導、論文作成指導
- 生涯教育：年2回のリウマチ膠原病セミナー開催（1月、7月）
- 市民公開講座開催（2018年9月18日）
- リウマチ専門医（内科系）2名取得

#### 3. 臨床研究等の実績

研究課題

- 全身性エリテマトーデスの治療反応性と長期予後の関連
- 炎症性腸疾患における関節症状リスク など

発表学会

- 日本リウマチ学会、日本内科学会総会
- 欧州リウマチ学会
- 日本内科学会東海地方会（優秀演題賞受賞）など 計10演題

### ■ 今後の展望

三重県内には、内科系リウマチ専門医が非常に少なく、また、日本リウマチ学会教育施設も4施設と全国1-2位の少ない現状ですが、リウマチ膠原病をめざして入局される先生は着実に増えています。地域の中核病院にリウマチ専門医を派遣しリウマチ膠原病診療にあたり、県内のリウマチ膠原病に悩まれる患者さん、先生方のお役に立てるようになることをめざしております。

<https://www.hosp.mie-u.ac.jp/section/riumachi/>